

## 【論点資料】

# 職業に関する各教科の 目標・内容の構造化・表形式化について

②





## 第3回WGの論点

### 第3回

#### 3. 産業教育全体に関する課題

- 産業界等との連携など、職業に関する各教科における専門的かつ実践的な学習の充実のため、探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりを意識できる構造の改善のあり方。

→第2回の目標に関する議論を踏まえ、各教科の構造を明らかにし、探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりの観点から再構築できないか。

#### ● ● 科

##### 専門教科

卒業年次

課題研究

選択履修科目

入学年次

基礎科目

##### 共通教科

#### 議題（1）：課題研究の在り方

- ①探究的・実践的な学びの積み重ねを意識した課題研究の今後の在り方

#### 議題（2）：各教科の構造的な整理

- ①探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりを踏まえた教科・科目の構造的な整理

#### 議題（3）：専門高校における教育課程の編成の在り方

- ①共通教科も含めたカリキュラム・マネジメントによる探究的・実践的な学びの積み重ねの在り方





議題 (1)

# 課題研究の在り方



# 「課題研究」における探究的な学びの実践

専門高校においては、従来より「課題研究」等において、探究的・実践的な学びが行われてきた。

## 課題の設定

(設定例)

【体験活動や既習事項から課題を設定】

- ・ フードロスなくしたい
- ・ ぶどうの着色不良の原因は何か

【学校が所在する地域の問題から課題を設定】

- ・ 町の産業の更なる活性化を図りたい
- ・ 県内漁業を活性化したい

【身の周りの出来事から課題を設定】

- ・ 学食、売店の売り上げを高め撤退から救う

## 情報の収集

(活動例)

【観察・実験】

- ・ ICT機器等を用いた様々なデータの収集
- ・ 条件を変えて変化を観察・記録

【調査】

- ・ インターネットや書籍等で産業の歴史や特徴の情報収集
- ・ 関係者へのアンケートの実施・集計

【関連する講座の受講】

(活動例)

【製作、ものづくり】

- ・ フードロスレシピの開発
- ・ 着色不良のぶどうを活かした商品開発

【イベントの企画・参加等】

- ・ 地域のイベントへの参加
- ・ 観光ツアープランの作成
- ・ クラウドファンディングによる計画実行

(活動例)

【計画の立案】

- ・ 情報や実験結果を整理し、課題の解決に向けた計画を立案
- ・ 大学や研究機関等との共同研究により新たな技術開発
- ・ AIアプリケーションのシステム構造図の作成
- ・ 調べた情報を分析し、解決手段を選択

## まとめ・表現

## 整理・分析



# 議題（１）課題研究の在り方

## ①探究的・実践的な学びの積み重ねを意識した課題研究の今後の在り方

- 「課題研究」は、総合的な探究（学習）の時間（平成10年告示～）よりも早く、平成元年告示において専門学科における探究的な科目として設置された。
- 平成10年告示において設置された「総合的な学習の時間」が、その取組の深まりと同時に内容の充実を図ってきた一方で、「課題研究」については、約30年が経過した現行学習指導要領においてもその規定内容に大きな変化がない状況。
- 各学校の創意工夫により、探究的な学びが進められている一方で、「まとめ・表現」については、計画の実装や実行に重点が置かれ、「課題の設定」等の他のプロセスが曖昧となっている事例も見受けられる。変化の激しい社会において、前例にとらわれず市場環境や業態変化に柔軟に 대응していく産業人材の育成に当たっては、「課題の設定」こそ重要。
- こうした観点から、今後、「課題研究」における探究的・実践的な指導をさらに深めていくためには、更なる改善が不可欠となっている。



### （１）の方向性①

- 次期改訂に向けては、文部科学省が実施してきたマイスター・ハイスクールの事業成果等を踏まえ、**産業界等のステークホルダーと連携を図る**ことも含め、「課題研究」の抜本的な見直しを図る必要がある。
- その際、現在のように「指導項目」を示すことはせず、探究課題の設定や指導内容は各学校の特色や実態等に委ねることとし、**各教科等横断的な学びや探究的な学習を通して身に付けるべき資質・能力や、産業教育における探究的な学習を行う際の配慮事項**を中心とした内容としてはどうか。
- 「課題研究」は設置時より、学習指導要領解説において、科目の特性から「高学年」、「卒業年次」において履修させることが望ましいとされてきたが、このことが卒業年次のみに履修するとの解釈に繋がり、**探究的・実践的な学びの積み重ねを阻害する要因**となっていると考えられる。



### （１）の方向性②

- 小学校から「総合的な学習の時間」において探究的な学びを深めてきており、探究的な学びの連続性、積み重ねという視点から、総合的な探究の時間との関連や、特例として総合的な探究の時間を代替することも可能となることも踏まえ、**学習指導要領解説における「課題研究」の履修学年の規定を削除**し、学校の実態等に応じて柔軟に教育課程を編成できるようにしてはどうか。
- その際、**探究的な学びは**与えられた課題を探究するのではなく、**自己の在り方生き方に関わる課題を自ら発見し、解決していくことが重要**であることに鑑み、例えば、**課題研究の導入段階で実社会・実生活に関わる課題を探究する活動を取り入れる**こととしてはどうか。

より専門性の高い課題の探究

実社会・実生活における課題の探究  
（自己の在り方・生き方に結び付ける）



# マイスター・ハイスクール事業の取組事例①

## 福井県立坂井高等学校

設置学科:機械・自動車科、電気・情報システム科、  
ビジネス・生活デザイン科、食農科学科



### できたこと

### 複数学科の連携、産学官が一体となったコンソーシアムの設立

### 依頼者ニーズに応じた 複数学科でのプロジェクト

新商品のお菓子の焼き印(お店のロゴ)を機械コースで、パッケージをビジネスコースで作成。焼き印作成では、実際に試し押しをして味を確認。お菓子の生地で焦げ方も変わるため、試行錯誤。

パッケージでは、お菓子や店の雰囲気などからイメージ。二つのコースが、一つのプロジェクトに関わり、依頼者のニーズを具現化する「もの」の創造を実践的に学習。



依頼者「軽小丸マルコ」と打ち合わせ

### 商品パッケージ作成を通して、 現実の課題を知る

本校栽培の梨を梱包するパッケージを作成するため、製紙会社と相談。色の発色を実現するにはコストがかかることが分り、試行錯誤し、完成。現在、ふるさと納税の返礼品として大人気の梨のパッケージに使用されている。



ふるさと納税の返礼品

### 積極的に協力する企業が30社近くに増加、 持続可能な体制に

コンソーシアムに参加する企業数29社、企業訪問できる企業数12社、企業や自治体からの相談や問い合わせが入ってくるようになっている。

### 取組の様子



学科を超えた課題研究交流会(自動車コースと電気コース)



軽小丸マルコのお菓子の焼き印  
(機械コース)



企業人と生徒で創る授業「ふくいの産果」



生涯がつくった農産物や加工品を自ら販売(農・食品コース)



地元産材を受ける店メディアから訪問



絶滅危惧種を保全する取組(農・食品コース)

#### 坂井高等学校 校長

### 企業との協働による学校改革

社会に通用する学び・本物の学びに向けた高校改革が求められています。マイスター・ハイスクールCEOと企業との接点とし、コンソーシアムとともにこれからの高校教育を考えることで、生徒の主体性が引き出されるだけでなく、学校内全体が教員を超える生徒を育てようという意識になっていっています。全国の専門高校のあるべき姿のロールモデルをつくっていくという意気込みでチャレンジをしています。

#### マイスター・ハイスクールCEO/プロデューサー

### 試行錯誤の両輪が重要

今、振り返ってみると、学びのスタンダードの構築と企業訪問での現場主義。そして、それを学科横断で課題研究に生かす、その両輪が、先生方並びに地域の方の協働を得たのだと思います。着手当初に時間をかけて目指す姿をイメージし、丁寧に関係者と信頼関係を築いてきたことが浸透し、機が熟し、取組が加速したように思います。「知り、共感し、疑問を持ち、考えて協働で探っていく」学びの基本をスタンダードを掲げて生徒・教職員全員で取り組みます。

#### 坂井高等学校 教諭

### 多様な依頼者ニーズに 応じることで育まれる力

モノづくりというのは精巧なものがつくれればよいわけではありません。独自性・創造性、コスト、使いやすさなど、依頼者ごとに異なるニーズに応じていく必要があります。そのためには学科ごとで対応するのではなく、学科横断で依頼者ニーズに応じて試行錯誤することが大切です。その結果として、社会がさまざまな形で繋がっていることを実感し、自身が学んでいる学科の意味や位置づけが深く理解できるようになります。

#### 産業実務家教員

### 高校生への授業から発見

観光学についての「イベントの企画」授業を担当しました。生徒自身が主催者の一人となり、福井県各地をフィールドとして、オリジナルな食のイベントのミニポスターを制作。感じられたのは、一般的な学力と比例しない能力の発露。これは本事業の意義の一つであり、生徒の新たな気づきにつながります。実際「私は企画を立てることが好きなことがわかった」と振り返りに記した生徒も。学科横断型や地域密着型に加え、実務家教員等の参加が生徒の可能性を大いに広げるものと確信しています。



# マイスター・ハイスクール事業の取組事例②

## 山梨県立農林高等学校

設置学科: システム園芸科、森林科学科、  
環境土木科、造園緑地科、食品科学科

共通ビジョン ワインの6次産業化への学びを通じて、地域産業の担い手を育成

学校の  
思い

- ・農業高校の学びと  
地域産業の  
特色を繋げたい
- ・学校の特色と  
して学科横断の  
カリキュラムを  
うちだしていく



ワイン産業の活性化と一体感

企業等の  
協力

- ・地域産業の  
担い手不足
- ・6次産業化に向けて  
業界全体としての  
バックアップ

できたこと

### ワインを題材とした6次産業化の流れをカリキュラムに組み込み

ワインをつくる体験だけであれば、導入することは学校主導でも可能。しかし3年間を通してブドウ栽培、ワイン醸造、販売・マーケティングを経験し、6次産業化について体系的に学んでいくことは、ワイン醸造のプロフェッショナルである産業実務家教員と地元ワイン産業界の協力が不可欠。



3年間を通してつくりあげたワインを出荷

### 社会での多様な体験と役割発揮が生徒の自己肯定感に

6次産業の体験の中で、それぞれの業界に興味を持つ生徒へのインターンシップを、地元産業界と連携しマッチング。大学とも連携し、幅広い進路支援を実現。多様な体験と役割発揮を通して、自分の強みや得意分野を発見し、自己肯定感の向上に繋がっている。

産業界側の  
意義



### ワインに関わる多くの産業界・企業が一体化

ブドウ栽培農家、ワインの醸造、小売り業、観光推進機構等、ワインに関わる様々な企業や機関が関わる機会となり、結果としてワイン産業の活性化と一体感を生み出している。地域ぐるみでの人材育成の必要性への理解が高まっている。

### 地域産業での雇用促進

すでに生徒が地域のワイン関連産業への就職することが決まっている。入学時点でも、ワイン業界を志望している生徒もあり、地域産業の担い手不足解消への一助となっている。

## 取組の様子



マイスター・ハイスクールの取組を受けることも頻りに



自分たちで醸造したワインを商品に仕上げ



ワイナリーで収穫体験



自分たちの作ったワインを自ら販売



高い品質の成果物で教育の質をPR



パリスタによる品評会

マイスター・ハイスクールCEO

### 地域の可能性を引き出す 産学連携の在り方

この学校にCEOとして着任して3年が経ちました。私の所属する岩崎醸造を始めとし、地域のワイン協会や関連する企業の皆さまにご協力をいただき、産業界と教育界が一体となった事業運営を推進してこれました。私がビジネスの観点から持ち込んだ考え方で、教育現場が変容したこともありますが、一方で学校現場に企業や基礎自治体に関わることで、生まれた価値や可能性も大きくあります。産業界や基礎自治体が一体となって地域振興をしていく気運が高まっていることも一つのつです。地域産業であるワインを共通項にして、学校と産業界・基礎自治体が連携していくことの意義を非常に強く体感し、新たな地域創生の在り方が見えてきているのではないかと感じています。

産業実務家教員

### 6次産業化の視点を持った 人材への期待

ワイン造りは古くから続く山梨県の地産産業。地域の財産であるワインを世界に発信するため、山梨のワイン産業の更なる発展が期待されています。品質向上によって近年人気が高まっている一方で、原料ブドウを供給する農家の減少や気候変動による品質への影響など様々な課題に直面しています。このような現状を打開するための人材育成プログラムとして、マイスター・ハイスクール事業に指定されました。ワイン造りは原料ブドウ栽培からワイン製造、販売までの一連の過程を含む典型的な6次産業。そのワインを教材として、6次産業の視点を持った地域資源を活用できる人材を育成しています。これから彼らはワイン業界を中心とした様々な分野・業界で活躍していくことでしょう。若い世代による地産産業の発展のために、今後も取り組みは続きます。



## ●教育課程審議会答申（昭和62年12月24日）

○幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の基準の改善について（答申）（抄）（昭和六十二年十二月二十四日教育課程審議会）

高等学校における各教科・科目の編成等

イ 職業に関する各教科・科目

技術革新の進展や経済社会の変化等に対応する観点から情報に関する科目を各教科に取り入れるなど科目の構成を見直すとともに、**問題解決のための継続的な学習が一層推進されるよう、各教科に新しい科目として「課題研究」を設ける**ようにする。

## ●「課題研究」の記載（農業科の例）

### （平成元年告示）

#### 1 目標

農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、統合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

#### 2 内容

- (1) 調査、研究、実験
- (2) 作品製作
- (3) 産業現場等における実習
- (4) 職業資格の取得

＜内容の取扱い＞

#### 2－(2)

「課題研究」については、生徒の興味・関心、進路希望など応じて、内容の(1)から(4)までのうちから個人又はグループで適切な課題を設定させること。

（高等学校学習指導要領解説農業編）

原則として農業に関する各学科において履修させるものとする。履修の学年については、この科目が、**各学科の専門教育を基礎として、生徒の設定する課題を中心に学習する科目であることから、高学年で履修させることが望ましい。**

### （平成30年告示）

#### 1 目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

#### 2 内容

〔指導項目〕

- (1) 調査、研究、実験
- (2) 作品製作等
- (3) 産業現場等における実習
- (4) 職業資格の取得
- (5) 学校農業クラブ活動

**学習形態**

#### 3 内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には、次の事項に配慮するものとする。

ア 生徒の興味・関心、進路希望など応じて、〔指導項目〕の(1)から(5)までの中から、個人又はグループで農業に関する適切な課題を設定し、主体的かつ協働的に取り組む学習活動を通して、専門的な知識、技術などの深化・統合化を図り、農業に関する課題の解決に取り組むことができるようにすること。なお、課題については、(1)から(5)までの2項目以上にまたがるものを設定することができること。

イ 課題研究の成果について発表する機会を設けるようにすること。

（高等学校学習指導要領解説農業編）

**科目の性格やねらいなどからみて、「農業と環境」は入学年次で、「課題研究」は卒業年次で履修させることが望ましい。**





議題 (2)

## 各教科の構造的な整理



# 産業共通



## 方向性

- 課題研究における**探究的・実践的な学びの一層の充実**の方向性も踏まえ、**教科全体として学びの深まり（何ができるようになるか）を意識**した教育課程の編成が可能となるよう、各領域・分野における**学びの体系（科目のタテ・ヨコのつながり）を整理**するとともに、**今後の「高次の資質・能力」の整理も踏まえ、各科目の整理（学ぶ内容の統合や精選、移管など）を行う**方向で検討してはどうか。
- 各教科の特色を踏まえ、学習内容と社会とを結びつける内容、特に、**経営管理やビジネスなどに関する内容の充実、データサイエンスやAIなど各産業におけるDX化に対応した内容の充実**を図ることとしてはどうか。

※国家資格の取得に向けた養成施設としての性格を持ち合わせた高校（海技士や調理師、看護師、介護福祉士など）の指導内容等については関連する指定規則等に配慮する必要。

## 現行

### 原則履修科目【課題研究等】

卒業年次に履修

### 選択履修科目（その他専門科目）

領域・分野

領域・分野

領域・分野

...

### 原則履修科目【基礎的な科目】

入学年次に履修

## 改善案

### 原則履修科目【課題研究等】

探究的・実践的な学びの積み重ね

### 選択履修科目（その他専門科目）

領域・分野

学習の深まり・積み重ね

領域・分野

学習の深まり・積み重ね

領域・分野

学習の深まり・積み重ね

...

領域・分野の整理、学びの関連性・可視化

### 原則履修科目【基礎的な科目】

入学年次に履修





## (2) の方向性 <農業>

- 教科の各領域や、**領域ごとの学びの体系性等**を踏まえるとともに、今後の「高次の資質・能力」の整理も踏まえ、**各科目の整理（学ぶ内容の統合や精選、移管など）を行う方向で検討**してはどうか。
- 原則履修科目「**農業と環境**」について、探究的な学びの一層の充実を図る観点から改善を図ってはどうか。
- **経営的な視点からの学びの充実を図る**ことができるよう、経営を学ぶ科目である「**農業経営**」及び「**食品流通**」について**科目の整理、充実**を図る方向で検討してはどうか。
- スマート農業の推進に向けて、「農業と情報」を中心とした関連する科目においてその充実を図ってはどうか。

### 現行

分野ごとの並列配置により、科目間の繋がりや学習の深化が見えにくい

#### 分野共通の科目（総合的な科目）

課題研究

総合実習

#### 農業生産や農業経営

作物・野菜・果樹・草花・畜産・栽培と環境・飼育と環境・農業経営・農業機械・植物バイオテクノロジー

#### 国土保全や環境創造

森林科学・森林経営・林産物利用・農業土木設計・農業土木施工・水循環・造園計画・造園施工管理・造園植栽・測量

#### 食品製造や食品流通

食品製造・食品化学・食品微生物・食品流通

#### 資源活用や地域振興

生物活用・地域資源活用

#### 分野共通の科目（基礎的な科目）

農業と環境

農業と情報

### 改善案

基礎から応用への学びの積み重ねと横断分野を整理し、科目の内容精選や統合を検討する

次ページ



# 農業科

## 改善案

基礎から応用への学びの積み重ねと横断分野を整理し、科目の内容精選や統合を検討する

### 専門領域別分野

農業生産・経営	食品製造・流通	国土保全・環境創造		
		林業系	造園系	農業土木系
経営・活用		施工・管理		
◎経営の支援から内容を充実、整理 農業経営 食品流通		森林経営	造園施工管理 造園植栽	農業土木施工
分析・科学		計画・設計		
栽培と環境 飼育と環境 植物バイオテクノロジー	食品化学 食品微生物	森林科学	造園計画	農業土木設計 水循環
生産・実践		基礎		
草花 野菜 果樹 作物 農業機械	食品製造	林産物利用 測量	測量	測量

資源活用・地域振興

生物活用

地域資源活用

資源活用・地域振興

生物活用

地域資源活用

分野共通の科目（総合的な科目）

総合実習  
課題研究（継続的な探究活動）

（農業と情報）

### 分野共通の科目（基礎的な科目）

農業と環境（プロジェクト学習の内容を充実）

農業と情報（スマート農業・AI・データサイエンスの内容を充実）

学びの深まり・積み重ね



# 工業科



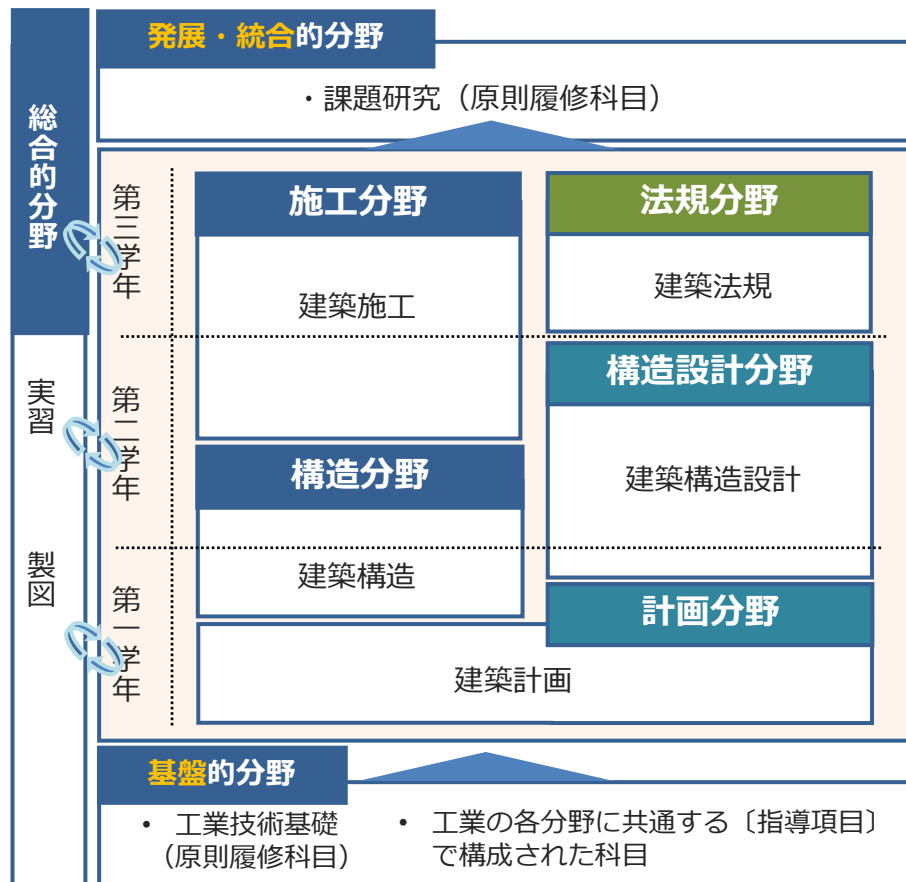
## (2) の方向性 <工業>

- 工業科は、機械科、電気科、電子科、建築科、土木科、デザイン科など、小学科が多岐にわたり、それゆえ教科「工業」の科目は現在59科目と、他教科に比べてひとときわ多いことから、**体系的な学びの実現という観点から改善を図る方向で検討**してはどうか。
- その際、各科目の内容を体系的に再整理し、その構造に基づいて**大ぐり化する方向で科目の統合を検討**してはどうか。

### 【建築系科目】の例

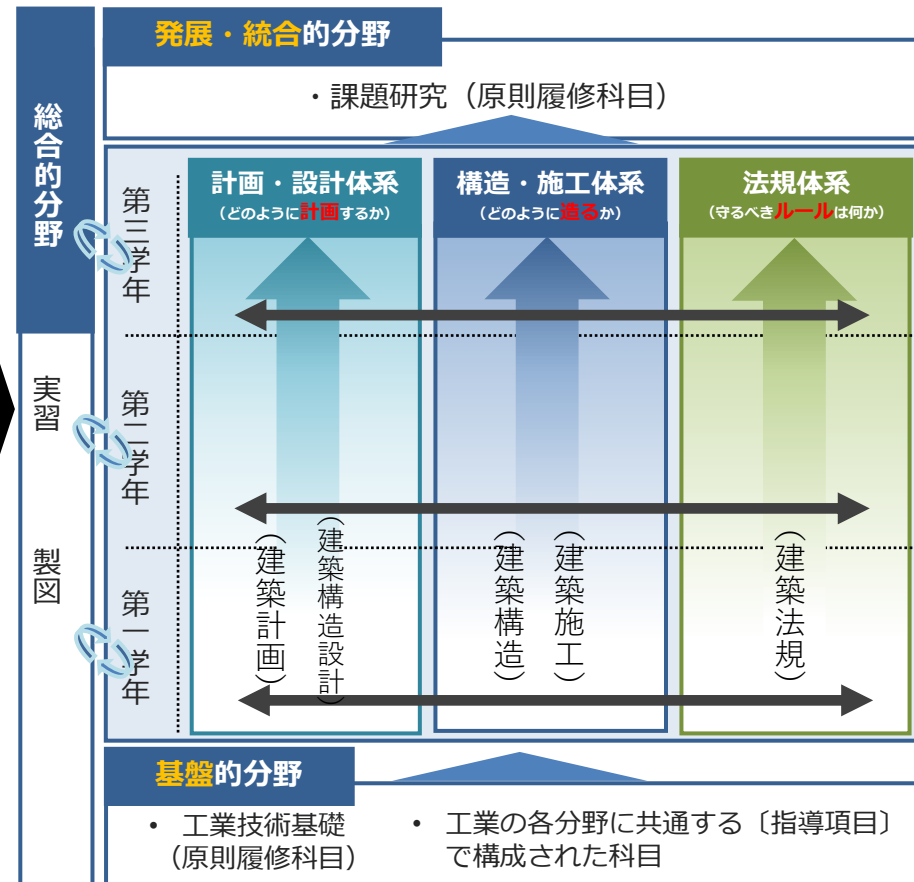
#### 現行

学年別の科目配置により、低学年次の体系的な学習が実現しにくい



#### 改善案

科目相互の関連性を強化し、体系的・系統的な学習を実現する



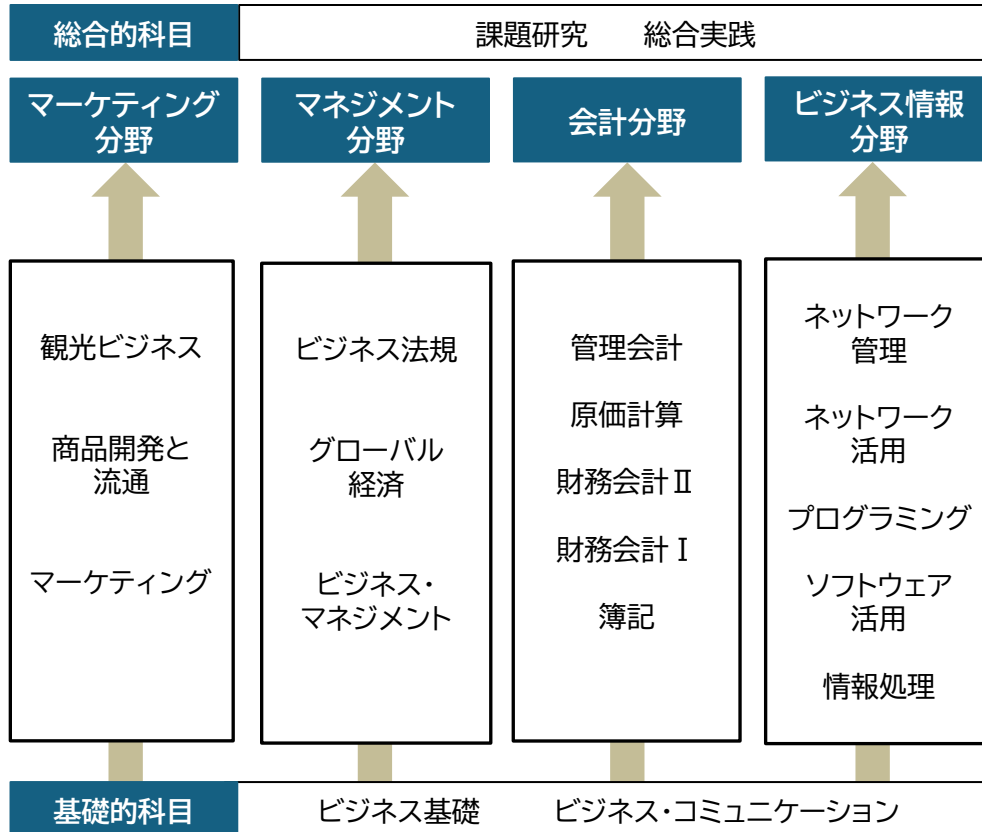




## (2) の方向性＜商業＞

- 専門的領域別分野を整理し基礎的分野、総合的分野との**系統立った科目構造を明確化**するとともに、探究的・実践的な学びの積み重ねや深まり、学びの関連性などの観点から、**分野や科目の再構築**を検討してはどうか。
- 従来の4分野を、**マーケティングとマネジメントの一体的な習得の必要性の観点から統合**し、それぞれの科目の内容の充実を図るとともに、**「会計分野」、「ビジネス情報分野」については、科目の内容の系統性やファイナンススキルの向上やデジタルスキルの向上の観点から科目の見直し**を行ってはどうか。

### 現行



### 改善案

次ページ



## 改善案

実践的

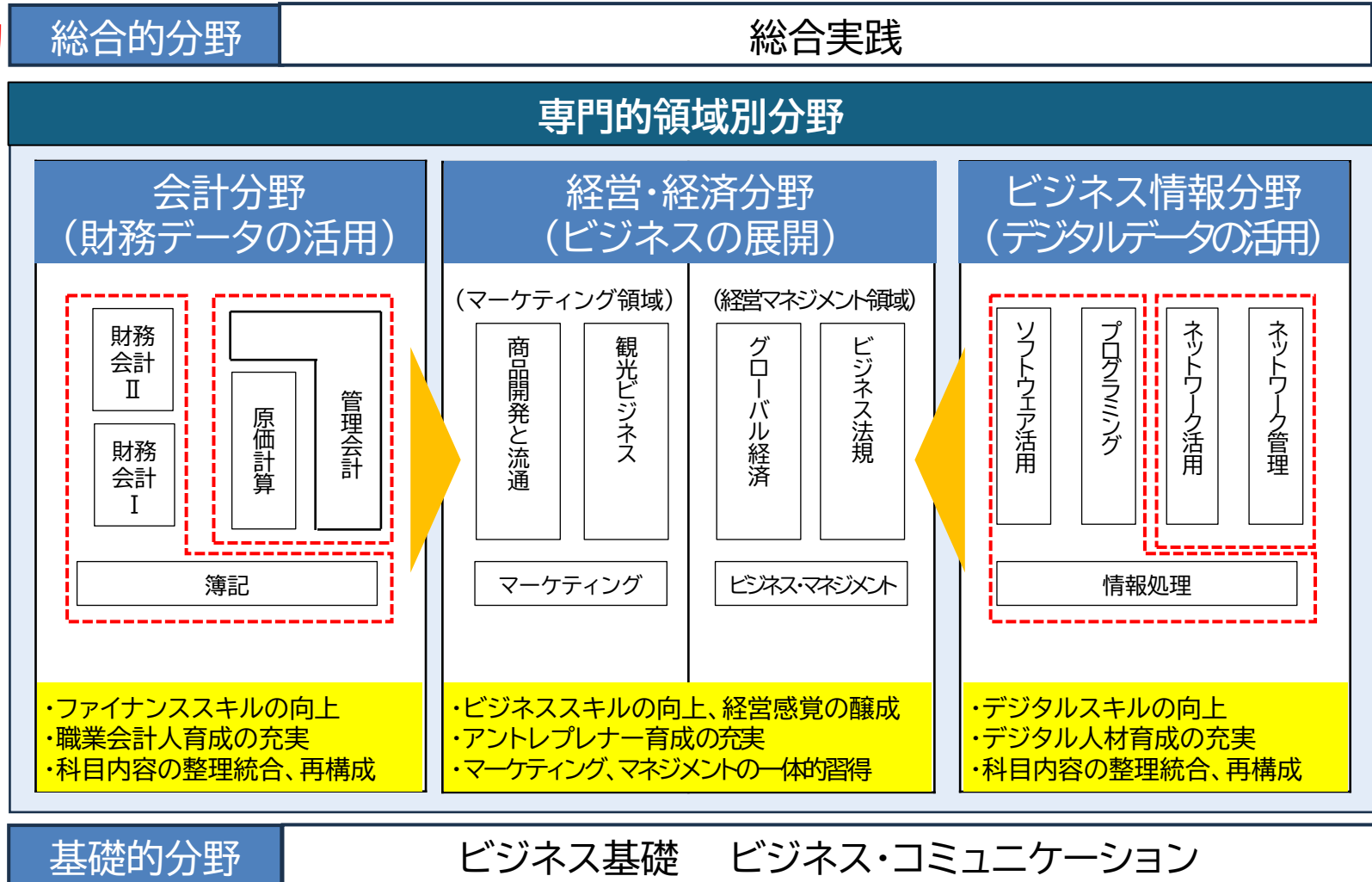
総合的分野

総合実践

総合的分野

課題研究

学びの深まり・積み重ね(タテの関係)



分野・領域の整理、学びの関連性・可視化(ヨコの関係)

探究的



# 水産科



## (2) の方向性 <水産>

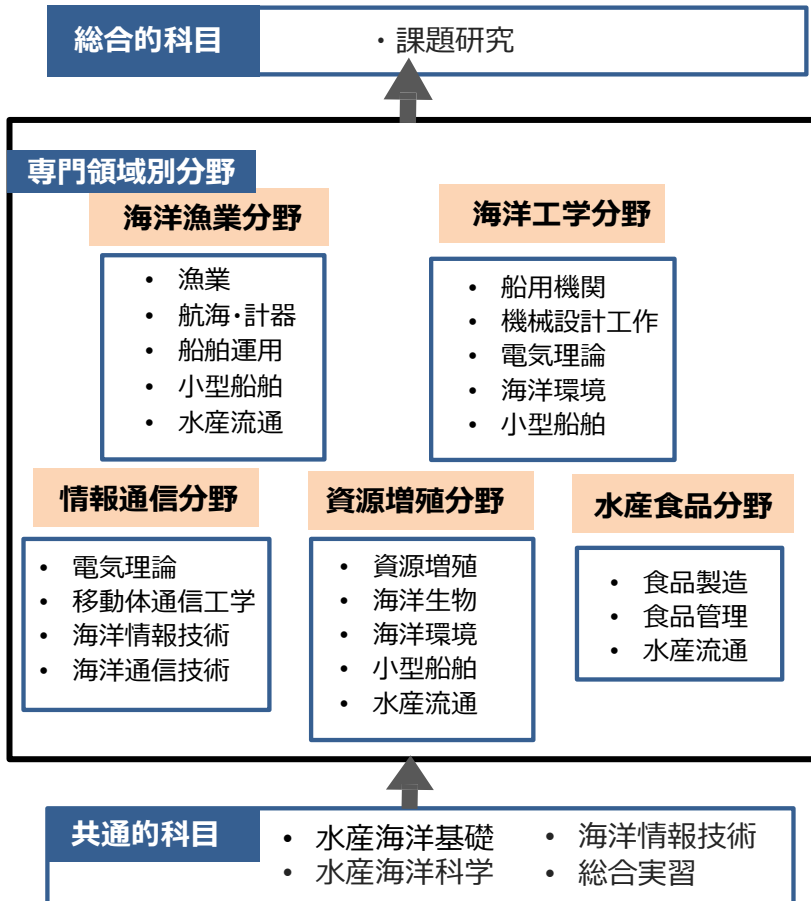
- 専門領域別分野を整理し、**系統だった科目構造を明確化**するとともに、産業界の変化やニーズに対応した「**海洋開発**」に関わる分野を**新たに設け**てはどうか。
  - **経営や6次産業化等に関する学習の充実**を図るため、従来の科目を見直し**新たな科目を検討**してはどうか。
  - AI・IoTを用いたスマート水産業、科学的・分析的な視点から水産を探究する、**科目の再構築**を検討してはどうか。
- ※「海洋漁業分野」、「海洋工学分野」、「情報通信分野」に関する科目は海技士養成に関する指定規則との関連に配慮する必要がある。

### 現行

データサイエンスやAIの活用、急激な産業界の変化への対応が不足

### 改善案

教科の構造を明らかにし、AI・IoTを用いたスマート水産業、科学的・分析的な視点、産業界の変化やニーズに対応



次ページ

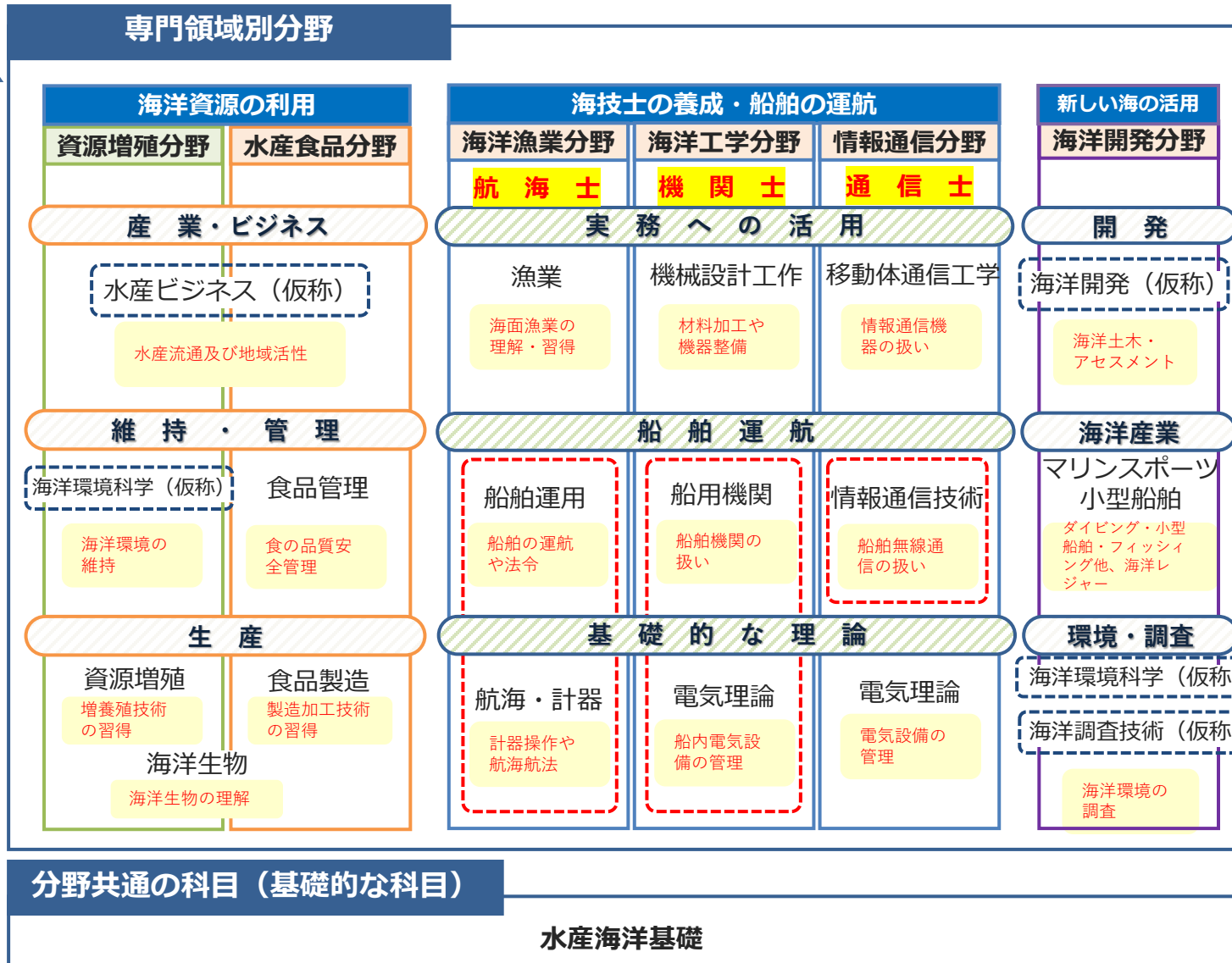


# 水産科

## 改善案

教科の構造を明らかにし、AI・IoTを用いたスマート水産業、科学的・分析的な視点、産業界の変化やニーズに対応

学びの深まり・積み重ね



分野共通の科目（総合的な科目）

総合実習  
小型船舶

課題研究  
海洋調査技術

※課題研究・総合実習  
通じ、探究的・実践  
に学びを積み重ね深  
っていく

科目の再構築

海技士資格に対応



# 家庭科



## (2) の方向性〈家庭〉

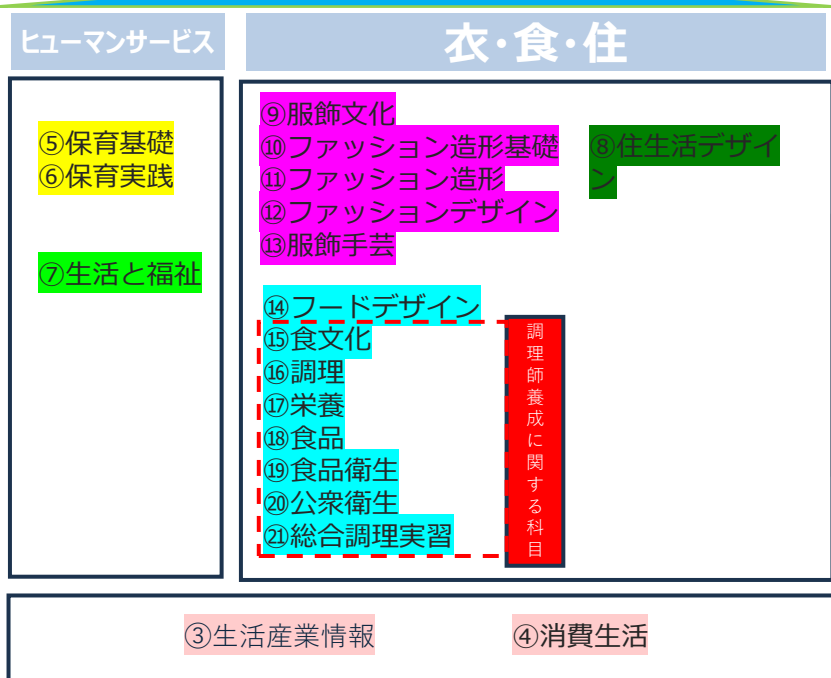
- 原則履修科目「**生活産業基礎**」について、探究的な学びの一層の充実を図る観点から改善を図ってはどうか。
- 共通分野科目「消費生活」は、**アントレプレナーの視点で商品やサービスの販売・企画等を学ぶ内容**に変更してはどうか。
- ※「**食分野**」に関する科目は調理師養成に関する指定規則との関連、「**ヒューマンサービス分野**」に関する科目は福祉科との関連に配慮する必要。

### 現行

探究的な学びの深まりが十分ではない

ICT等を活用した指導内容が不足

### ②課題研究（原則履修科目）



### ①生活産業基礎（原則履修科目）

### 改善案

各科目の往還の促進、探究的な学びの深化に対応  
DX機器等、デジタル学習基盤を活用した実践的学びの充実

横断的・往還的分野 人々の生活を支える生活産業の展開



### 基礎・教養的分野

生活産業基礎（原則履修科目）

分野・領域の整理、可視化

学びの深まり・積み重ね



# 看護科

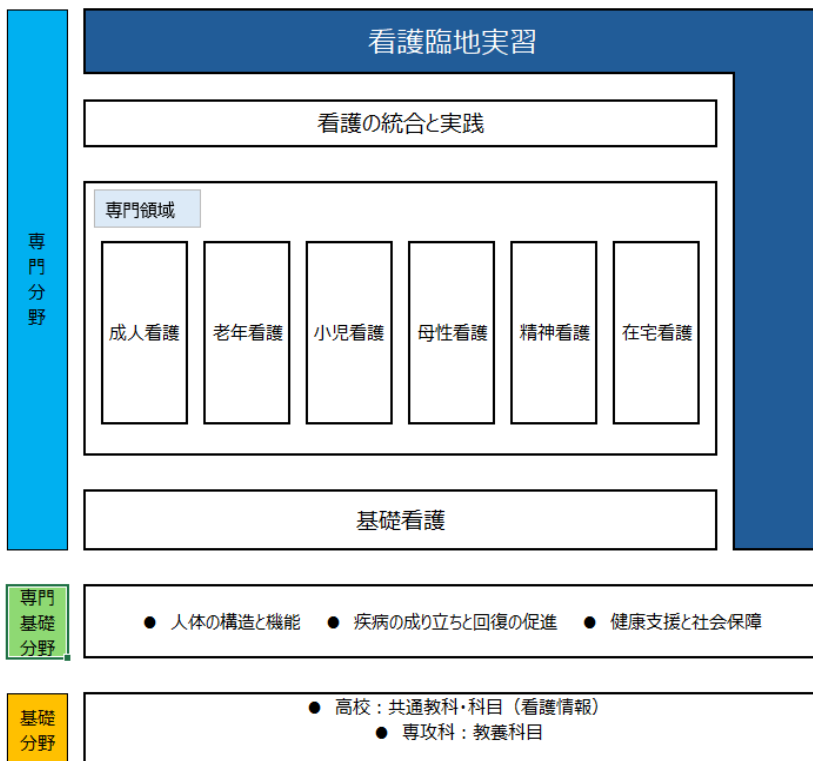


## (2) の方向性 <看護>

- 教科の構造的な整理をとおして、特に母性看護、小児看護、成人看護、老年看護など専門分野の科目間における**指導内容の重複を解消**する方向で整理してはどうか。
  - **全て科目で実習と座学の往還を意識した学び**が深まるよう、内容の取扱いの工夫改善を検討してはどうか。
- ※各科目について看護師養成に関する指定規則との関連に配慮する必要がある。

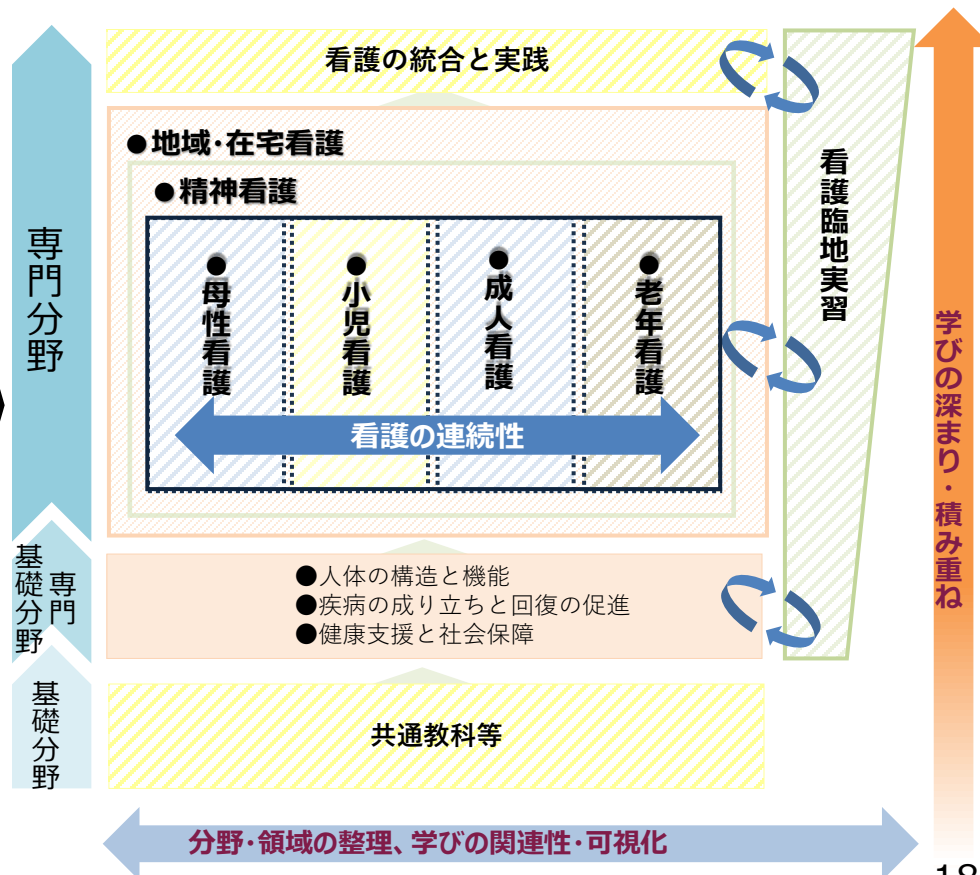
### 現行

- ・各科目それぞれの学びの関連を意識できるようにしているが、指導内容の重複も多い
- ・様々な、看護の場の連続性を意識しにくい



### 改善案

多様な看護の場を意識し、看護の連続性を想定した緩やかな科目の編成も考えられるようにしている





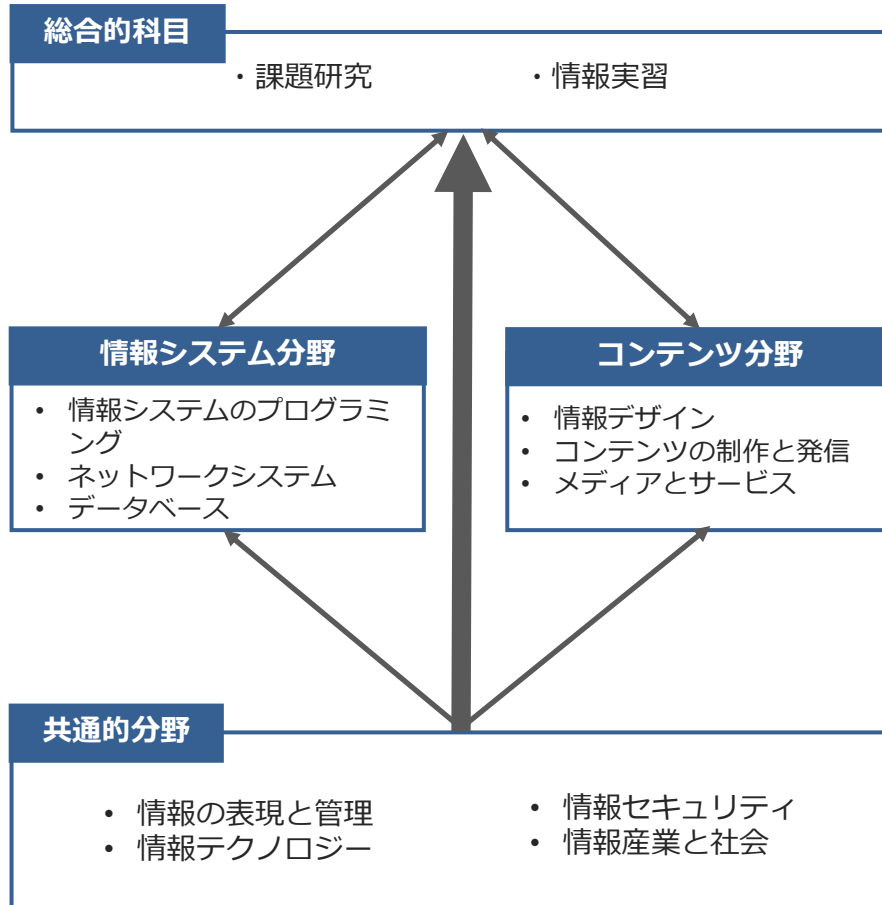


## (2) の方向性 <情報>

- デジタル技術が飛躍的に発展し、現代においてデータサイエンス・AIは欠かすことのできない分野であるが、専門教科「情報」に対応した科目がないため、**新たな分野として「データサイエンス、AI」に関する分野を新たに設ける方向で整理**することにより。
- その他、中学校における情報の取り扱いや、共通教科「情報」の改訂の方向性も踏まえた検討をしていく必要。

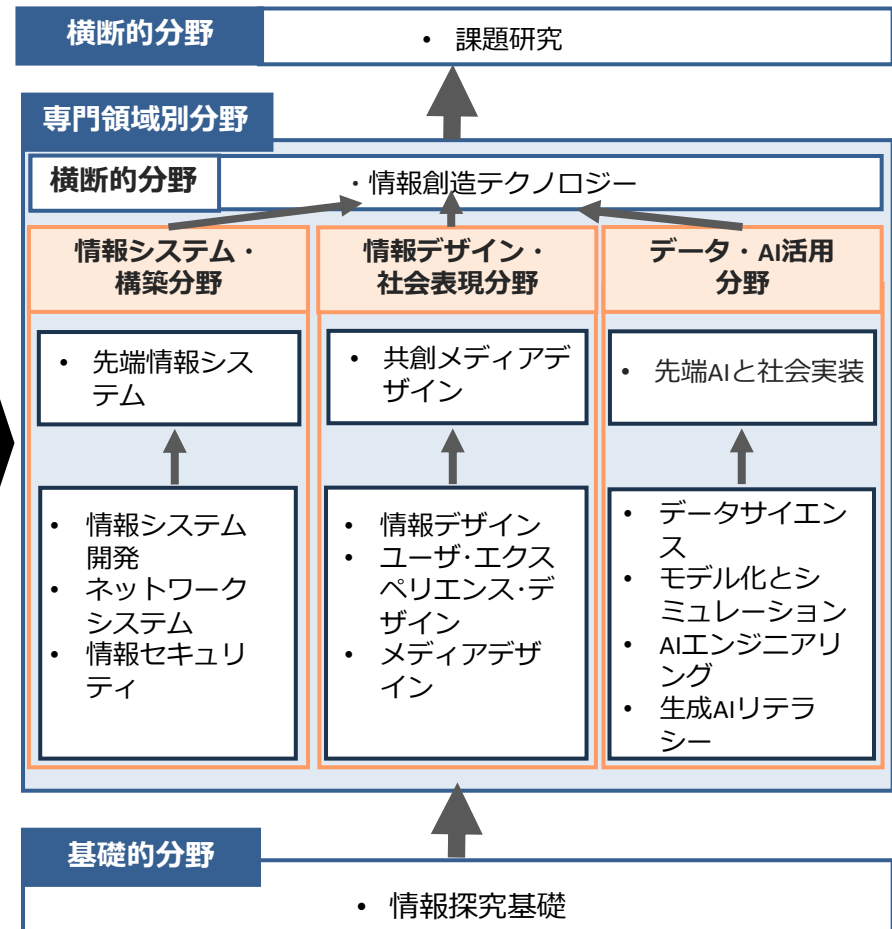
### 現行

全体としてデータサイエンス・AIに関連する分野が不足



### 改善案

データサイエンス・AIを追加、情報技術の進展に対応





# 福祉科



## (2) の方向性 <福祉>

- 専門的分野を整理し、基礎的・教養的分野及び総合的・横断的分野との体系的な関連を明確化するとともに、学びの積み重ねや深まり、学びの関連性などの観点から分野及び科目の再構築を検討してはどうか。
  - その際、介護福祉士の養成カリキュラムの内容を踏まえつつ、探究的な学びの深化を図る観点から実習と探究活動の往還を促進することができるよう、「介護総合演習」及び「介護実習」について科目の整理、充実を図る方向で検討してはどうか。
- ※各科目について介護福祉士養成に関する指定規則との関連に配慮する必要がある。

### 現行

探究的な学びの深まりが十分ではない

介護テクノロジーの活用及び多文化共生におけるチームマネジメントに関する学習が十分ではない

#### 専門的分野

##### 介護分野

- ・ 介護福祉基礎
- ・ コミュニケーション技術
- ・ 生活支援技術
- ・ 介護過程
- ・ 介護総合演習
- ・ 介護実習

##### こころとからだのしくみ分野

- ・ こころとからだの理解

#### 基礎的分野

##### 人間と社会分野

- ・ 社会福祉基礎

##### 情報分野

- ・ 福祉情報

### 改善案

分野及び科目の再構築、探究的な学びの深化に対応

既存科目の中で、介護テクノロジーの活用及び多文化共生におけるチームマネジメント力の育成に対応

総合的・横断的分野 日常生活を支える福祉の展開

介護過程 ●

介護総合演習 ⇄ 介護実習 ●★

#### 専門的分野

日常生活を支える  
介護福祉

コミュニケーション技術 ●★

生活支援技術 ●

介護福祉基礎 ★

日常生活を支える  
心身の働き

こころとからだの理解 ●

ケア

エビデンス

基礎的・教養的分野 日常生活を支える福祉と情報

社会福祉基礎 ★

福祉情報 ●★

(●印：介護テクノロジー ★印：多文化共生のチームマネジメント)

分野・領域の整理、学びの関連性・可視化

学びの深まり・積み重ね

介護テクノロジーを活用した実践的な学び  
多文化共生におけるチームマネジメント力の育成



## 職業に関する各教科において開設される科目

教科	科目
<b>農業</b> (30科目)	農業と環境, 課題研究, 総合実習, 農業と情報, 作物, 野菜, 果樹, 草花, 畜産, 栽培と環境, 飼育と環境, 農業経営, 農業機械, 植物バイオテクノロジー, 食品製造, 食品化学, 食品微生物, 食品流通, 森林科学, 森林経営, 林産物利用, 農業土木設計, 農業土木施工, 水循環, 造園計画, 造園施工管理, 造園植栽, 測量, 生物活用, 地域資源活用
<b>工業</b> (59科目)	工業技術基礎, 課題研究, 実習, 製図, 工業情報数理, 工業材料技術, 工業技術英語, 工業管理技術, 工業環境技術, 機械工作, 機械設計, 原動機, 電子機械, 生産技術, 自動車工学, 自動車整備, 船舶工学, 電気回路, 電気機器, 電力技術, 電子技術, 電子回路, 電子計測制御, 通信技術, プログラミング技術, ハードウェア技術, ソフトウェア技術, コンピュータシステム技術, 建築構造, 建築計画, 建築構造設計, 建築施工, 建築法規, 設備計画, 空気調和設備, 衛生・防災設備, 測量, 土木基盤力学, 土木構造設計, 土木施工, 社会基盤工学, 工業化学, 化学工学, 地球環境化学, 材料製造技術, 材料工学, 材料加工, セラミック化学, セラミック技術, セラミック工業, 繊維製品, 繊維・染色技術, 染織デザイン, インテリア計画, インテリア装備, インテリアエレメント生産, デザイン実践, デザイン材料, デザイン史
<b>商業</b> (20科目)	ビジネス基礎, 課題研究, 総合実践, ビジネス・コミュニケーション, マーケティング, 商品開発と流通, 観光ビジネス, ビジネス・マネジメント, グローバル経済, ビジネス法規, 簿記, 財務会計Ⅰ, 財務会計Ⅱ, 原価計算, 管理会計, 情報処理, ソフトウェア活用, プログラミング, ネットワーク活用, ネットワーク管理



## 職業に関する各教科において開設される科目

教科	科目
<b>水産</b> (22科目)	水産海洋基礎，課題研究，総合実習，海洋情報技術，水産海洋科学，漁業，航海・計器，船舶運用，船用機関，機械設計工作，電気理論，移動体通信工学，海洋通信技術，資源増殖，海洋生物，海洋環境，小型船舶，食品製造，食品管理，水産流通，ダイビング，マリンスポーツ
<b>家庭</b> (21科目)	生活産業基礎，課題研究，生活産業情報，消費生活，保育基礎，保育実践，生活と福祉，住生活デザイン，服飾文化，ファッション造形基礎，ファッション造形，ファッションデザイン，服飾手芸，フードデザイン，食文化，調理，栄養，食品，食品衛生，公衆衛生，総合調理実習
<b>看護</b> (13科目)	基礎看護，人体の構造と機能，疾病の成り立ちと回復の促進，健康支援と社会保障制度，成人看護，老年看護，小児看護，母性看護，精神看護，在宅看護，看護の統合と実践，看護臨地実習，看護情報
<b>情報</b> (12科目)	情報産業と社会，課題研究，情報の表現と管理，情報テクノロジー，情報セキュリティ，情報システムのプログラミング，ネットワークシステム，データベース，情報デザイン，コンテンツの制作と発信，メディアとサービス，情報実習
<b>福祉</b> (9科目)	社会福祉基礎，介護福祉基礎，コミュニケーション技術，生活支援技術，介護過程，介護総合演習，介護実習，こころとからだの理解，福祉情報





### 議題 (3)

## 専門高校における教育課程の編成の在り方



## 議題（３）専門高校における教育課程の編成の在り方

### ① 共通教科も含めたカリキュラム・マネジメントによる探究的・実践的な学びの積み重ねの在り方

- 産業界では、変化の激しい社会の中で、前例にとらわれず市場環境や業態変化に柔軟に応えられる産業人材の育成が求められている。専門高校においても、こうした人材を育成するため、各学科における専門教科はもちろんのこと、当該専門教科の学びを生きて働く学びとするため、探究的・実践的な学びを充実させることが重要。
- 探究的・実践的な学びは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせることで深い学びに繋がるものであり、したがって、これらを充実させるためには教科等横断的な視点からの**カリキュラム・マネジメントの充実**が重要。
  - 高等学校学習指導要領総則  
各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに努めるものとする。
- カリキュラム・マネジメントは、「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」が重要であるが、**専門高校においては、専門教科を中心とした教育課程が編成され、このことが教科等横断的、総合的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントや資質・能力の育成の意識を弱める原因**となっていると考えられることから、今一度専門高校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方を検討する必要がある。



### （３）の方向性

- 議題（１）も踏まえ、専門高校では探究的・実践的な学び、教科等横断的な学びを実現する科目として課題研究等が位置付けられているが、当該科目を**カリキュラム・マネジメントの中核的な科目として位置付け**てはどうか。
- その際、改めて、
  - ・ **学校の教育目標や、地元産業界や地域の実態等も踏まえた目標設定や、自己の在り方生き方につながる課題を設定**すること、
  - ・ **各教科等で身に付けた資質・能力を活かしながら活動に取り組む**こと、
  - ・ 探究・研究活動に当たっては、**全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ、活用されるように**すること、などを科目の内容の取扱い等の配慮事項として整理してはどうか。